

## 「子育ては親育て」

～「子育て」にとって大切なことは～①



昨年 12 月 14 日（火）母子保健福祉関係者研修会「子育てによりそう」～地域の子育て力を高めるために～と題して、比治山大学短期学部新宅博明教授にご講演いただきました。そこで先生の執筆の中の「子育ては親育て」～「子育て」にとって大切なことは～について 2 回にわたり掲載しますので、これからの子育てにお役立てください。

子育てに必要なものを説明するとき、植木や盆栽などを育てる場合に例えることがあります。まず、生き生きと伸び、力強く成長していくことを期待して、「日当たり、水気、暖かさ、肥料」に注意を払い、大地に植えて、これらを十分に与えます。そうすれば、樹は根や枝を張り、幹も太く、見るからにたくましく育っていきます。これを私は「支え」と呼びます。生き物を生き生きと活力ある状態に保ちながら、やがて、伸び放題の枝などに対して手を加え形を整え始めていきます。これを私は「粹付け」と呼び、自己を統制する働きととらえています。

「支え」とは、生活場面の「保護者の優しさと衣食住の保障」のことです。赤ちゃんは、保護者の優しさと快適な食事・衣類・住居・相手があれば、安心してすくすくと育っていきます。また、この「支え」の働きは、子どもの「存在」を深いところで認め、ほめ続けます。これは、「私の子どもとして、そこにいてくれるだけで私はうれしい」といった保護者に普遍的な心の底からの思いです。存在をほめるこの言葉は、特に精神的に弱り果てた子どもをよみがえらせます。いろいろ注文を付けられて、期待という重い荷物を負わされ続けた子どもが、行き詰まった時、一番聞こえてほしい言葉の 1 つです。



次号は「粹付け」について掲載します。